

令和3年度 授業改善推進プラン

☆実態及び課題

教科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	自分の考えを積極的に発表しようとする児童が多い。書くことについては、文章で自分の考えを表すことができる児童がいる一方で、ひらがなを正しく書くことや「は」「を」等の正しい使い方に課題が見られる児童もいる。	登場人物の気持ちをよく考えることができる児童が多い。話を最後まで聞くことや、新出漢字の定着に課題が見られる。	漢字のドリルやノートを丁寧に書く児童が多く、漢字小テストへの意欲も高い。文章を読んだり、書いたりする場面で正解かどうかを意識する児童が多い。多様な考えがある問いに対して積極的に取り組むことが課題である。	読みの力は高く、言葉に着目して文章を読むことができる。書く力は、段落構成などの準備をすれば文章を書くことができる。原稿を作らず、メモを使って発表することは苦手の児童が多い。	漢字練習では、テストに向けて新出漢字の練習を一生懸命取り組む子が多い。一方で、書く力において文章の構成を考えて書くことに難しさを感じている児童もいる。	言葉を通じて積極的に自分の考えや思いを伝えることを苦手と感じる児童が多い。反面、文章構成の型を知り、書くことで自分の考えや思いを伝えることができるようになってきている児童もいる。
社会			実際に校外に出て見学をしたり、体験したりする機会が確保できないため、学習が内容の理解のみにとどまり、実感を伴った理解にまで繋がっていない。そのため、思考力を問う問題を苦手とする児童が多い。	学習意欲が高く、どの単元でも関心をもって学んでいる。働く人の話などの文書資料になるとどう読み取ったらいいかわからない児童がいる。また、調べたことから考えたことを書くことが苦手の児童もいる。	地図や資料をもとに正確に情報を読み取ることができている。また、日本の国土の特徴をタブレットを使って調べる学習には意欲的に取り組んでいる。一方で、調べたことから考えを深めることができない児童が多い。	歴史的事象や歴史的背景に詳しいなど、歴史学習に興味を示している児童が多い。一方で、学習内容に対して興味をもてなかったり、学習内容を十分に理解できなかったりする児童もいる。
算数	ブロックなどの具体物を使っての計算はできる。問題が文章で表されているとその場面が具体的に想像できずに、立式できない子がいる。ブロックなどの半具体物に置き換えると、立式したり計算したりすることは、ほとんどの児童ができている。	算数への学習意欲が高い児童が多い。1位数同士の加減計算の定着が不十分なために2位数同士の計算でもつまづいている児童が数名いる。加減計算の答えの見直しの仕方に課題のある児童が数名いる。	事前に学習内容を知り、答えの求め方を覚えている児童は多い。しかし答えを出すことはできても、その意味の理解までは十分でない場合が多い。2年生までの九九を完全に習得できていない児童も数名いる。	かけ算やわり算など、基礎的・基本的な計算の力が身につけていない児童が数名いる。問題の意味は理解できても自分の考えを表現することに難しさを感じる児童が数名いる。	作図技能や図形の性質理解については、十分身に付いている児童が多い。小数のかけ算、わり算では、計算技能は高いが、問題に表されている児童の関係を分かりやすく表現して立式することは苦手としている児童もいる。	小数のかけ算、わり算の計算では、位取りを間違える等の誤答が多い。基本的な文章問題は解答することはできても説明することに難しさを感じる児童が多い。作図を苦手とする児童も多い。
理科			学習に対して意欲的である。モンシロチョウの観察や風やゴムの動きの実験など、どの単元も興味津々で取り組んでいた。問題作りから考察までの学習の一連の課程に慣れ、問題解決の基礎を身に付けることが課題である。	自分の身の周りの事象と学習内容が結びつかずに難しさを感じている児童がいる。また、実験内容と学習内容が結びつかず、科学的知識として学習内容が定着できていない課題がある。	発芽実験の水替えやメダカの世話など、多くの児童が熱心に取り組んだが、継続的に取り組むことが難しい児童も一部いた。顕微鏡を使った観察には、どの児童も高い興味関心を示したが、観察の視点など科学的な見方を伸ばしていく必要性を感じた。	実験に対し意欲的に取り組んでいる。問題・予想・方法・実験・結果・考察という一連の問題解決力が身につけている児童と予想から方法を考える際に意欲を失ってしまい、実験だけに意欲をもつ児童とが混在している。
生活	身のまわりの事象や自然や生き物について、気付いたことを積極的に発言したり、カードに記したりしている。一方で、観察したことをどのように表現すればよいか分からず、難しさを感じる児童も半数いる。	植物や生き物と触れ合ったり観察したりすることが好きな児童が多い。一方で、違いや特徴などの気付きを絵や文章等で表現することに課題が見られる児童が多い。				
音楽	音楽に合わせて拍を打ったり、リズムを打ったりする活動に意欲的に取り組んでいる。鑑賞では、音楽を聴いて気付いたことや感じたことを発達段階に応じて言葉にして表現できるようにしたい。	音楽に合わせた身体表現やリズムを打つ活動では、進んで学習に取り組む児童が多い。鍵盤ハーモニカの学習では、苦手意識をもつ児童が多く、技能に差が見られる。	低学年までの既習内容が定着していない児童が多い。そのために、新たに学習する内容に取り組むことが困難である。	音楽づくりでは、自分のイメージする雰囲気合った旋律を音楽の仕組みと結び付けてつくることができた。しかし、鑑賞では音楽を聴いて気付いたことや感じたことを言葉にして表現することが難しい児童がいる。	器楽合奏では、多くの児童が初めて扱う楽器に興味をもって進んで取り組むことができた。一方で、技能面で苦手意識をもっている児童もいる。	器楽合奏に意欲的に取り組んでいる。多くの児童が初めて取り組む楽器に興味をもち、協力して演奏する様子が見られたが、集中して学習に取り組むことが難しい児童もいる。

図工	活動の進め方を理解し、自分らしく表現できる児童が多い。一方、すでに苦手意識をもっていたり、失敗を恐れたりして、なかなか活動を始められない児童もいる。道具の安全な使い方や危険性の認識が課題である。	発想豊かで自分らしく表現できる児童が多い。一方で集中して取り組めない児童も数名いる。道具の安全な使い方や危険性の認識が課題である。	2年時より細かい作業も集中して取り組める児童が多くなってきた。しかし、お互いの授業態度について指摘し合う場面が多く、集中して制作する時間が短くなる傾向がある。	作品を完成するまでの一つ一つの過程を大切に、着実に積み上げていく児童が多い。一方でなかなか学習に取り組めない児童、表現内容に指導が必要な児童もいる。	発想豊かで、教師の助言をうまく自分の中で消化し、自分の表現として形に表すことができる。一方でアイデアが浮かばず時間が足りなくなってしまう児童もいる。	集中して話を聞いたり、取り組めない児童がいる。大事なことを伝える時や、安全指導を行う時に全員の集中力が教師に向くように注意を払っている。
家庭					初めての裁縫の学習に意欲的に取り組む児童が多い。しかし、基礎的な技能の定着に個人差が見られる。	裁縫など作業することには関心が高く、意欲的に取り組むことができる。一方、縫い方の手順等の指示を理解して取り組むことに課題がある児童が多い。
体育	動物の動きや友達の動きの真似をしたり、走る・跳ぶなどの活動に取り組んだりする中で、楽しく運動する姿が見られ始めた。一方で、体幹が弱く、姿勢の保持が難しい児童もいる。	体を動かすことが好きで、体育の学習を楽しみにしている児童が多い。本年度は初めてのプールの学習も、きまりを守って楽しく取り組んでいた。勝敗のつくゲームで負けを受け入れることに課題が見られる。	体育の学習が好きな児童は多い。一方で個人の能力差が大きい。また、負けず嫌いな児童も多く在籍しており、勝ち負けにとられ、運動の楽しさを味わえていない。	進んで運動に取り組む児童が多い。体の動かし方や技のポイントを友達と伝え合いながら学習している様子も多く見られる。一方で、友達からのアドバイスや教師からの助言を生かして運動の仕方を工夫することに難しさを感じる児童も数名いる。	運動することへの興味関心は高い。協力的にアドバイスしたり、補助したりして助け合って運動できる児童が多い。リズムに合わせて動いたり、体幹をぶれさせずに動いたりすることが苦手な児童が数名いる。	運動に意欲的に取り組む児童が多い。リレーの学習では、バトンパスの技能向上を目指して自分たちで練習方法を工夫していた。マット運動では、互いの動きを見合い、アドバイスをする様子が見られた。一方で、チームでの練習に進んで参加しない、友達の動きを見ようとしめないなど、友達との関わりに対して消極的な児童がいる。
道徳	授業の中ではよく考え、自分の思いを積極的に発表しようとする等、意欲的に取り組む姿が見られる。しかし、語彙の少なさから自分の思いが十分に伝えられないという課題もある。	役割演技で自分の考えを表すことが得意な児童が多く、友達の考えを聞いて共感する姿も見られる。一方で、自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童も多い。	友達の考えを聞いたり自分の考えを伝え話し合ったりするなど道徳の授業が好きな児童が多い。しかし、自分の考えにこだわる児童も多く、多種多様な考えを認めたり、相手の気持ちを考えたりすることが課題である。	自分の考えだけでなく、友達の考えも大切に作る姿が見られる。書いて表現することが苦手な児童が見られる。	多くの児童が自分の意見もち、発言することができる。発言頻度や、考えの深め方など、取り組む姿勢の個人差は大きい。	友達の考えを受け止められる児童がいる一方で、「その考えは違うのではないか」と自分との違いを受け止められない児童もいる。
外国語					聞くこと・話すことについてはほとんどの児童が十分な力を身に付けている。特に話す力は高い。書くことについては、アルファベットが正しく書けなかったり、大文字、小文字が混じってしまったりするなど個別指導が必要な児童も数名いる。	外国語を聞き慣れている児童とそうでない児童とがいる。そのため、聞き取る力に差が見られる。また、書くことにおいても、単語やセンテンスを理解している児童はすらすら書けるが、そうでない児童は、なかなか書き進められない現状がある。

☆課題解決の視点・手立て ※取り組む内容 課:課題 学:学習形態 発:発問・指示・板書 教:教材の工夫

教科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正
国語	<p>課日常的に日記など文を作る課題を提示し、助詞などを含めたひらがなの練習・文の書き方などを個別に指導を行う。</p> <p>教ワークシートを効果的に使用し、書く負担が重くならないようにする。</p>		<p>課友達の話を書きたい、自分の意見を伝えたいと思える教材の工夫を行う。</p> <p>発漢字指導では、成り立ちや似ている漢字を扱い、新出漢字を覚える工夫をする。</p>		<p>学教師が多様な考えを認めて学級全体に広げていく。また、全体で発表する前に、個別に声掛けを行い、自信をもって発言できるようにする。</p>		<p>課メモをもとに話す機会や、メモなしで意見を話す機会を増やし、話す力を伸ばしていく。</p>		<p>教説明文を読み、「初め」「中」「終わり」の役割や構成を確認する。さらに文章の構成メモを活用していく。</p>		<p>学様々な学習形態で交流する機会をもち、自分の考えや思いを伝える中で、自分の考えを伝えることの楽しさを味わわせていく。</p>	
社会					<p>学実際に体験できない分、ICTを活用した映像資料の視聴や、地域の地図を使った学習などを通して実感を伴った理解を促していく。</p>		<p>発資料を読み取る視点を示し、資料から何が分かるかを確認していく。</p> <p>学話し合い活動を取り入れ、調べた事実から社会的事象の意味について考えられるようにしていく。</p>		<p>学調べたことから考えが広げられるように、友達と意見を交流する機会を多く設ける。また、疑問に思ったことは積極的に調べるようにしていく。</p>		<p>学NHKforschoolの映像を積極的に活用し、興味関心を高め、理解の定着を図っていく。</p>	
算数	<p>発分かっている数と求める数に線を引いたり囲んだりして、問題場面を理解できるようにさせる。</p> <p>学自分が立てた式について、理由を説明させる中で、式の意味について指導していく。</p>		<p>課朝学習の時間に、ベーシックドリルを活用し、1年生の簡単な計算の復習を繰り返し行い、1位数の計算を定着させる。</p> <p>学答えが大体いくつになるのか見積もったり、検算をしたりして、日頃から誤答を防ぐための方法を指導する。</p>		<p>課習熟度別のコースごとに単元導入の内容を工夫したり、実態に合った難易度の学習課題を用意したりする。</p> <p>学自分の考えを図や数直線など、多様な方法で表すことで意味の理解を深める。</p>		<p>学授業の導入で既習内容の復習をしたり、宿題に繰り返し取り組んだりすることで、計算力の向上を図る。</p> <p>発まずは文章題で何が問われているのかを捉えさせる。そして自分の考えを図や言葉で表し、説明する活動を取り入れる。</p>		<p>教習熟度別のコース別に問題の内容や数値を工夫し、児童の実態に合った学習になるようにしていく。</p> <p>学数直線は5年生の算数の学習では多く使われるため、効果的に活用できるように丁寧に指導していく。</p>		<p>課小数の計算では、ベーシックドリルを活用したり、日々の学習で丁寧に文字を書いたり、位をそろえて書いたりするよう声をかけたりして誤答を減らしていく。</p> <p>発文章題では、自分の考えを図や言葉で表し、説明する活動を多く取り入れる。</p>	

理科					<p>学3年生の理科に対する興味関心を大切に する。問題→予想→計 画→実験・観察→結果 という流れを繰り返す なかで問題解決の基 礎を養う。</p>		<p>教日常生活の中で自 然事象を適宜取り扱 い、意識づけをさせ ていく。実験内容とそ の結果や考察とが結び つくように板書を整 理して書くよう工夫す る。</p>		<p>教できるだけ、一人一 人が自分で実験を行 い、科学的な思考だけ でなく、実験そのもの への関心を高めてい く。 発結果(事実)と分か ったこと(考察)の違 いを意識させる授業 の展開を工夫する。</p>		<p>課教科書の言葉をそ のまま課題にするの ではなく、児童の思考に 沿った言葉で本時の 学習課題を考える。 発予想や計画も意欲 的に考えていけるよう 発問を工夫する。</p>	
生活	<p>発児童の気付きの 質を高められるよう な助言や発問を心が ける。 教児童の気付きが 高められるように、 掲示物や板書等を工 夫する。視覚的に振 りかえられるよう に、ワークシート等も 工夫する。</p>		<p>発観察を行う前に、全 体で観察の視点や用 語の使い方などを共 有する時間を設ける。 視点を示し、自分の観 察カードをかく際に生 かせるようにする。</p>									
音楽	<p>発低学年向けの音 楽を表す語彙表の掲 示をする。また、児童 が参考にしながら学 習できるように、わ かりやすい言葉での 発問や板書を工夫す る。</p>		<p>教鍵盤ハーモニカの 運指が視覚的に理解 できるようにICT機器 を活用したり、必要に 応じて個別の指導を 行ったりする。</p>		<p>課学習を進めていく 中で児童の実態を見 ながら復習を取り入 れ、既習内容の定着を 図る。</p>		<p>発中学年向けの音楽 を表す語彙表を教室 に掲示し、児童が参考 にしながら学習でき るようにする。 学児童同士の伝え合 う活動を行い、全体で 共有を図りながら表 現の幅を広げていく。</p>		<p>発児童一人一人に応 じた個別指導を行う。</p>		<p>課学年の実態に合っ た題材の工夫や課題 の設定を行う。 発個別指導をしなが ら学習活動への参加 を促していく。</p>	
図工	<p>教新しい素材との出 会いや道具の新しい 使い方を知ることを 通して、創作意欲を 刺激し、活動に関心 をもたせる。 発個に応じて声をか けたり、褒めたりし て活動を楽しめるよ うにする。</p>		<p>教新しい素材と出会 わせる機会を多くもつ ようにすることで、創 作意欲を刺激し、なか なか取り組めない児童 にも関心をもたせる。 学道具への危険意識 や安全指導を含め、全 体に継続して指導す る。</p>		<p>課互いの授業態度を 指摘し合う場面では自 分の作品と向き合わ せ、具体的に次に何を するかイメージをもた せる。担任と連携し て、表現活動に集中で きる環境づくりをす る。</p>		<p>発イメージしやすい言 葉がけをしたり、イメ ージを表現するまで のプロセスを助言し たりする。 学互いに見合う時間 を設け、友達の良さか ら学び、児童同士が高 め合えるようにする。</p>		<p>教発想の豊かさをさ らに伸ばすために多 方面に展開のしやす い教材を開発したり、 素材選びをしたりす る。 発児童がイメージしや すい声掛けを行う。</p>		<p>発個に応じて声をか け、作品や表現の良さ を教師が褒めて、自分 の作品や表現に対して 自信をつけられるよう にする。</p>	

家庭									<p>学裁縫の手順の説明を細かく示したり、電子黒板で実際に見せたりして、裁縫の基本を指導する。また実態に応じて個別に支援を行う。</p> <p>課トライカードを活用し、学校で学んだことを家で実践し、家族の喜びを次のやる気につなげる。</p>		<p>学裁縫の手順を細分化したり、一つ一つの実技のやり方を示したりして、自分の力で取り組めるようにする。</p> <p>教裁縫は複数の制作例を提示することにより、実生活で使おうと思える物を製作する。</p>	
体育	<p>学友達と一緒に運動する際に、学び合いの仕方や意識する視点などについて丁寧に指導する。</p>		<p>学鬼ごっこやミニリレー等、勝敗がすぐに決まる簡単なゲームを繰り返して行い、勝敗が全てではなく、運動自体を楽しむ姿を価値づける。</p>		<p>学勝ち負けをつける楽しさではなく、運動本来のおもしろさを味わわせていきたい。勝敗ではなく、自己の記録や能力を伸ばすことを中心に考え授業を構成していく。</p>		<p>教言葉だけで助言し合うのではなく、互いの動きを見合ったり、タブレットで動きを撮影したりして、自分の動きに生かしていきけるようにする。</p>		<p>教個人差に応じた場を複数準備することで、一人一人の力に合わせて運動技能を高められるようにする。</p> <p>課巧緻性を高める体づくりの運動を多く取り入れた授業プランを立てるようにする。</p>		<p>課意欲的に取り組む児童が多いので、さらに「やってみよう」という意欲をかき立てられるよう、児童一人一人の力に適した動きや技を提示するようにする。関わりに対して消極的な児童について、個別に声をかけ、意欲を高められるようにする。</p>	
道徳	<p>学児童が自分の考えを伝え易くするために、動作などでも表現できるようにする。</p> <p>教吹き出しのワークシートや登場人物へのお手紙などの教材を用意し、児童が日常の話し言葉でも表現できるようにする。</p>		<p>発児童が自分の意見を持ちやすいような発問の工夫を行う。</p> <p>発机間指導の際に個別に声を掛け、自分の意見に自信をもつことができるように支援する。</p>		<p>発ワークシートや発問の厳選で児童が自分の考えを明確にもてるように支援する。今後も役割演技等で自分の考えを話しやすいように工夫する。</p>		<p>発児童が自分の考えを表現する時間を多くとるため、中心発問を吟味する。グループ交流の時間をとり、いろいろな意見を知ること、自分の考えを表現する力を伸ばす。</p>		<p>発一斉指導での発表や話し合いだけでなく、グループでの話し合いやロールプレイなどを取り入れ、一人一人が自分の課題として学習に取り組めるようにする。</p>		<p>課全体交流の時間を多く設定し、たくさんの友達の考えに触れられるようにするとともに、どうして人によって考え方が違うのかについても考えられるようにする。</p>	

外国語									<p>教英文を書かせる機会を増やしながらも、過度の困難さや負担を感じることはないよう、工夫したワークシートを準備する。</p>		<p>課リスニングの時間を多く取るようにする。その際、どんなことを聞き取ることができたのかを全体で確認し、再度聞いて、理解を深められるようにする。</p>	
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--